

# 防災基礎コースのリニューアル

1. 多肢選択テストの作成状況
2. 防災基礎の講座公開の検討

# 1. 多肢選択テストの作成状況

## ●多肢選択テストの作成ルール（企画検討会第1回）

### 設問文：

- 各区分に設定した学習目標に関連する問題を3問作成する
- 問題の内容は学習目標に関連したものを問う
- 講義で説明した内容の中から出題する

### 回答選択肢：

- 回答選択肢は、①正しい文章を1つ、誤った文章を3つ作成し、正しい文章を選択させる出題形式、または②正しい文章を3つ、誤った文章を1つ作成し、誤った文章を選択させる出題形式を基本とする
- 選択肢の順序には意味を持たせない（ランダム順で出題する）

### 解説文：

- 受講生が回答を入力した後、問題の正誤に関わらず、問題の詳細な解説文と講義テキストの該当箇所を表示する

## テスト作成のプロセス

- (1) 出題の対象（身につける知識）をテキストから抽出する
- (2) 問題文と正答の選択肢を作成する
- (3) 誤答の選択肢を作成する
- (4) 解説文を作成する

※ 講師の希望に応じて（2）～（4）は事務局が行い、講師が確認する

## ●テストの作成例（講師：NPO火山防災推進機構 新堀氏）

<b>単元</b>	火山災害のハザード	
<b>パターン</b>	①正しい文章を選択させる出題形式	
<b>問題</b>	火山災害に係る、火山噴火の特徴について述べた文章として正しいものを、次のうちから一つ選べ。	
<b>選択肢</b> <small>※青字下線が誤りの箇所</small>	火山噴火の特徴の一つとして現象の複雑さが挙げられる。すなわち、マグマの性質、噴火の場所や噴火履歴などにより様々な形態をとる。しかも時間とともに変化する。	正
	火山噴火の特徴の一つに、 <u>災害の長期化は挙げられない</u> 。噴火が終わってしまえば、現象は何も起きないからである。	誤
	火山の噴火の特徴の一つとして、噴火規模が多様であることが挙げられる。しかしながら、 <u>小さな噴火では生命の危険はない</u> ので、防災の観点では考える必要はない。	誤
	火山の噴火の特徴の一つとして、 <u>火山ごとに決して変わらない</u> 噴火のくせがあることが挙げられる。	誤
<b>解説</b>	火山噴火の特徴の一つに、現象の複雑さが挙げられる。火山ごとの特徴を、当該火山の専門家の助言も得ながら適切にとらえることが、一連の警戒避難態勢の構築の基礎となる。	

## ●テストの作成例（講師：内閣府防災担当（復旧・復興担当））

講義	大規模災害からの復旧・復興	
パターン	②誤った文章を選択させる出題形式	
問題	激甚災害制度について、次の文章から間違っているものを一つ選べ	
<b>選択肢</b> <small>※青字下線が誤りの箇所</small>	個人の住宅や工業・農業生産物、個人所有の農業用ビニールハウス等の被害は、激甚災害方の対象外となっている。	正
	局激については、対象災害及び適用措置に加え、対象地域を明示して指定する。局激の指定は、 <u>年度末にのみ</u> 、一括して指定を行う。	誤
	特例措置を受けられる自治体は、1暦年の激甚災害による災害復旧事業の地方負担額を踏まえて、年度末に特例措置等を受けられる自治体が確定される。	正
	激甚災害の指定を早くしてほしいという要望が多く寄せられる。このためには、各地方公共団体において被害額の把握を迅速に行っていただく必要がある。	正
解説	局激については、災害と提供措置に加えて、対象地域（市町村）を明示して指定します。原則、年度末に一括して政令指定を行います。基準に明らかに該当する場合（基準額の2倍に該当する場合等）は、本激と同様に災害の度ごとに政令指定します。（いわゆる早期局激指定）。	

## 2. 防災基礎の講座公開の検討

防災基礎コースの講座をより多くの方に見て頂くことを目指し、下記の取組みを実施する。

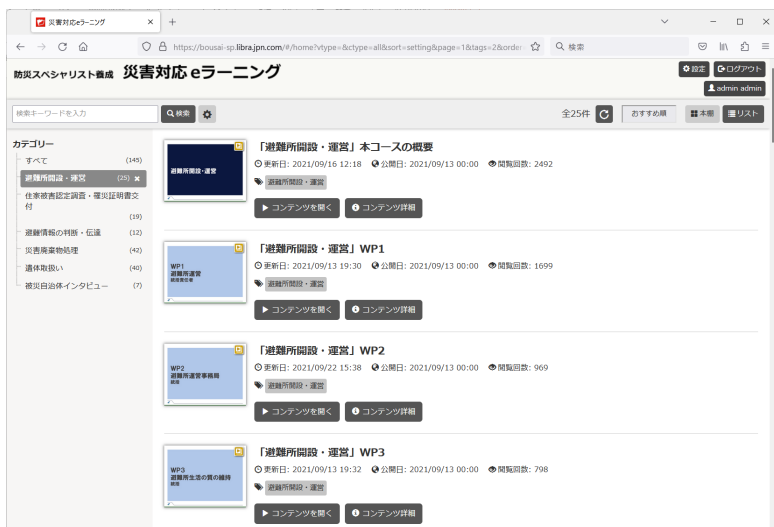
### ■ 企画検討会でのご意見と対応案

- 防災基礎コースの受講形態は、履修管理を行う定員600名とは別に履修管理を行わないYouTubeなどで誰でも自由に視聴できる形態があっても良いのではないか。（第1回企画検討会）

#### ➤ 対応：eラーニングシステムによるコンテンツの公開

- 現在の災害対応eラーニングと同様のログインIDパスワードを要するが履修管理を行わないシステム上でコンテンツを公開してはどうか。
- 災害対応eラーニングと共通のID・パスワードで閲覧できるようにしてはどうか。

### 【参考】 災害対応eラーニングのシステムイメージ



コンテンツ一覧画面



動画再生画面